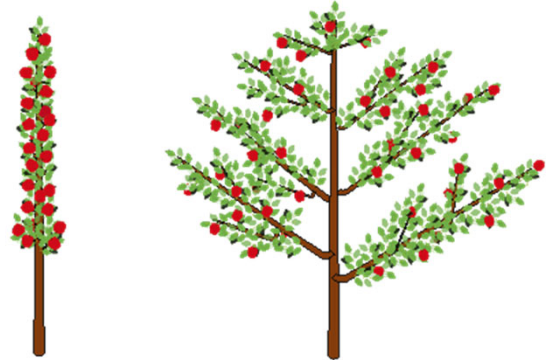


# スラリと直立！りんご新品种「紅つるぎ」を開発 — りんご栽培における管理作業を省力化 —

- 枝が横に広がらずコンパクトな円筒型の樹姿となるカラムナー性りんご「紅つるぎ」を開発。
- 枝の伸長が少なく樹の構造も単純なため、特に横一列に配置することで作業動線を単純化でき、栽培における管理作業の作業性の改善が可能。
- カラムナー性と高糖度・良食味を両立した品種の開発は国内初。
- わが国のりんご生産を革新する品種として期待。

研究機関：農研機構



カラムナー性      分枝型(通常型)

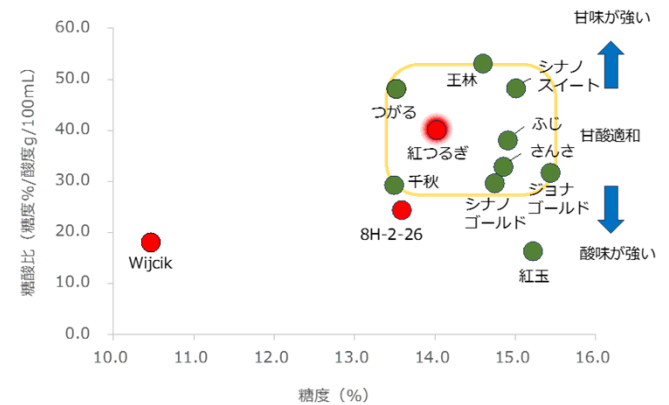
カラムナー性と分枝型の樹姿との比較(模式図)



「紅つるぎ」を利用した壁状の樹園地



「紅つるぎ」の果実(左:樹上、右:収穫後)



「紅つるぎ」はカラムナー性の母本(「Wijcik」、8H-2-26)とは違い、既存の主要品種(黄色枠内)と同等の食味を持つ

## 導入により期待される効果

列状に植えた「紅つるぎ」は壁状に果実がなるので、果実の管理、収穫等の多くの作業で省力化に貢献。スマート農業技術との相性も良く、規模拡大・収益向上が期待される。

連絡先 農研機構 果樹茶業研究部門 研究推進室

e-mail: NIFTS\_inq@naro.affrc.go.jp